

SCAI 2024 Fellow course に参加して
日本赤十字社医療センター 小児科 藤岡 泰生

日本赤十字社医療センターの藤岡泰生と申します。小児循環器学会から選出いただき、2024 年 12 月 11～15 日に Miami Hyatt Regency ホテルで開催された SCAI 2024 Fellow Course(Congenital Heart Disease Course)に参加してきました。英語しか通じない(自分にとって)緊張感のある環境の中で、米国でカテーテル治療医を目指す医師が受ける研修内容や米国でのカテーテル治療の実情を知る事で自分の視野を広げたいという思いから、すでにフェローを名乗るには歳をとり過ぎていることは重々承知していましたが、厚かましくも応募させて頂きました。

今年のコースは Program chair の Children's Healthcare of Atlanta の Holly Bauser-Heaton 先生をはじめとした米国、カナダの第一線で活躍されている Faculty による講義、3D モデルを使用した Harmony valve 留置のハンズオン、Fellow による Case Presentation などで構成されていました。講義では日常で遭遇するほぼ全ての領域における最新の知見や各施設での実際の治療が紹介されていました。どの内容もとても実用的で大変勉強になりました。

Fellows Case Presentation and Panel Discussion の session では 4 人の Presenter の一人に選出頂きました。昨年参加された東京女子医大病院の朝貝省二先生に続き、2 年連続日本人が選ばれたことは大変光栄な事でしたが、コース開始 1 週間前に選出のメールが届いたため慌ただしく準備をすることになってしまいました(次回参加される先生には、直前まで念入りにメール確認することをお勧めします!)。また、Opening session のトップバッターであったため、発表直前まではかなり緊張したのですが、Moderator や Panelist の先生に暖かく迎えて頂き、なんとか落ち着いて発表を終えることができました。

残り 3 人の presenter は、タイで ACHD に携わっている先生、シカゴで研修中の先生、アフリカからの先生で、それぞれ、"成人の cAS に対する AVR 後に医原性に生じた pmVSD に対する MFO を用いた VSD 閉鎖"、"体重 5kg の ASD を transhepatic approach でデバイス閉鎖した 1 例"、"mVSD, pmVSD に対する MFO と ADO II を用いて閉鎖した 2 症例"というもので、大変興味深い発表でした。

CHD 関連以外の企画も少しあり、"SCAI Women in Innovations (WIN)Career Development"という session は大変印象に残りました。女性医師が Moderator, Panelist を務めて「Cath Lab で働く中で、被曝の問題を含め、どのように健康を維持していくのか」、「プライベートと仕事をどのように両立していくのか。」といった議題についてぎくばらんに様々な意見が交わされていました。議論されていた内容自体は男女問わないように感じましたが、私が理解できていない日本特有の女性医師の働き方に関する諸問題はあるは

ずなので、現在 top runner として活躍している女性医師に問題提起をして頂き、皆で話し合っていくことは、今後日本でも小児循環器カテーテル治療の領域に、より多くの女性医師が参画するために重要な事ではないかと感じました。

また、全体を通して、教育方法にとっても感銘を受けました。どの session でも Faculty 同士で笑いが起きるような砕けた話(内容は十分に理解できませんでしたが)を盛り込みつつ発言しやすい空気を作り、Fellow からの一つ一つの質問に対し感謝を伝えながら丁寧に答えるなど、一方通行にならない雰囲気づくりがとても上手だなと感じました。こういったことは講義以外でも随所に感じました。例えば、毎朝、いくつかのテーブルに分かれて朝食を取るのですが、フェロー同士で食べているテーブルに Faculty がずっと入ってきて、さりげなく仕事とは全く関係ない話をして皆が話をし易い空気を作ってから一人一人に仕事の内容や将来の事をお互いに質問し合う、といった様子です。

実際の臨床の現場でも同じようなコミュニケーションがとられているかは分かりませんが、若手の先生に指導をする時は、“上級医が一方的に話をして、教えて欲しい事があるなら若者から聞きにきなさい”、というスタンスを取るのではなく、上級医が先手を打って若手の先生にアプローチする姿勢はとても大切で、今後の研修医の教育に取り入れてみようと思いました。

基本的には朝から夕方までプログラムが組まれているため、観光をする余裕はありませんでしたが、最終日にフライトまでの時間を利用して、現地で知り合ったフェローと Miami beach に繰り出し、最後の食事を楽しむことができました。アジア、ヨーロッパ、アフリカなど、成人領域を含めると 23 カ国からフェローが参加していたようですが、様々なバックグラウンドを持つフェローと交友を深める事ができたことは大変刺激になり、かけがえのない財産となりました。この交友関係を継続し、今後の仕事にも活かしていければと思っています。

最後に、年末の忙しい時期に快く送り出してくださった日本赤十字社医療センター小児科スタッフ一同と、選出くださった小児循環器学会に心から感謝申し上げます。移動時間も含めると一週間近い時間を要するため、難しい部分もあるかもしれませんが、日本ではできない貴重な経験をする事ができる機会だと思います。来年も是非若手の先生にはチャレンジして頂きたいですし、「チャレンジしたい!」と若手の先生が手を挙げた際には、上級医の先生は是非背中を押して頂きたいと思います！

